

令和2年8月3日

日本ライオンズ・アラート委員会委員長 小林聡 殿

MD335 アラート委員 兼 西日本統括リーダー

坂本恵市

MD337 班長 青木和彦

令和2年7月豪雨災害・熊本県被災地視察報告

7月27日と28日に熊本県南部の各被災地及びボランティアセンター及びライオンズの活動状況を視察

【八代市社協ボランティアセンター】

松本博昭事務局長の及び氏原耕二地域福祉課長より聞き取り。

○運営状況

1. ボランティアは多い日で300名入るが、ボラセンより被災地区（山間部川沿い）への直通の道が土砂で通れず、地理に詳しい運営スタッフが送迎をすることになる。よって運営スタッフが回らずマッチングなどボラセン自体の運営に支障が出ることになる。
2. JCや日赤婦人会などの協力を得ている
3. ライオンズは八代球磨川LCのL堀口（集積所担当者）が被災地の復旧に入っている。（被災地域の8Zは全体的にメンバー数が少なく 協力体制が取りにくい 337E キャビネットの呼びかけにより応援に入る予定があるも雨で中止になった模様）



○資材要望

1. 現状、資材は足りているが、梅雨が明けるこれからの季節は、「発電機」、「軽トラの荷台にのるポンプ付き水タンク」があると助かる。
2. 塩飴、ドリンクなど（長期的に欲しい）
3. 軽トラなどを運転できる地理に詳しい方が欲しい



○芦北町の状況



災害発生から3週間でもこの状況

【免田ライオンズクラブ】

高田第二副（集積所担当者）より聞き取り

○クラブの活動状況

子クラブの錦LCと人吉市の災害復旧にあたっている。メンバーが交代で337Eより借り受けた2tトラック及び軽トラで被災地域に出向き、浸水した家財などの運搬及び病院等の復旧活動を行い、また、市民への飲料水の提供を行っている。

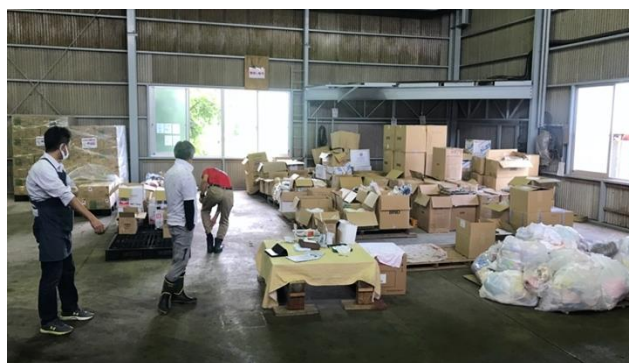
また、高田二副からは、アラート委員会へ提出された要望にあるように、支援物資よりも支援金を要請されました。



○集積所の支援物資状況

337Eを初め各地から届いた支援物資が保管され、ここから社協を含め配布されている。

また市民がこの集積所を訪れ支援物資を受け取ることも出来る。（その為にメンバーが常駐しなければならない、長期的な運用の難しさを感じる）



【人吉市社会福祉協議会ボランティアセンター】

人吉社会福祉協議会松岡誠也事務局長より聞き取り

○運営状況

四連休の初日は 1200 人のボランティアが参加、平日は 200 名程。

ライオンズの軽トラも活動中

○資材要望

資材は各種団体から届けられ十分なストックがあるが、休日などボランティアの数が多く日は、不足することもある。

現在のところ資機材の要望などは特にないとのこと。



【人吉ボラセンのライオンズブース】

ボランティアの方々へ飲料水等及び消毒液の提供を行っている。またボランティアセンター設置会議当初より JC と共に支援を行うことで合意しており LC 設置の倉庫を共有している。これから気温が高くなるためブースに於いてかき氷やアイスクリームなどの提供を検討中。



【人吉ライオンズクラブ】

竹原会長にお会いできました

後ろの建物は会長のビルですが、2階の店舗も裏にある住居も浸水してしまい『80歳も過ぎてから何もかも失うことになるとは・・・しかし、なんとかクラブが存続できるように前向きに頑張りたい』と仰っておられました。

ほとんどのメンバーが被災した人吉 LC ですが、それでも少しずつ飲料水提供などの支援をされています。



【青井山 高野寺】

ライオンズとの交流が深い人吉市青井山 高野寺の味岡戒孝氏を訪ねました。

こちらは4.7mの高さまで浸水しています。

壊滅的な被害を受けながらも被災者のために寺を開放してあらゆる必要物資を配布。氏と繋がりのあるライオンズのメンバーやクラブからの物資が直接届けられています。

また、あちこちの被災住宅に出向いてのボランティア活動も精力的に実施されている素晴らしい方です。





【まとめ】

- 今回の災害は、コロナ禍という非常事態の中で起こった初めての大きな災害である。

被害が甚大かつ広大な範囲に及ぶ被災地において圧倒的に必要なのはとにかくマンパワーであるにもかかわらず、他県からの人的支援ができないというところが大変もどかしく悩ましいところである。発災から約1ヶ月が経過し、被災者の方の疲労や心的ストレスもかなり増大してきている中でどんな支援が可能なのか？

日本ライオンズ・アラート委員会として、さまざまなアイデアを模索して実施しなければならない。

① 熊本 337-E 地区キャビネットの要望

- ・物資に関しては基本的には充足しているし、その都度必要になるものは全て近隣で購入可能である。経済的復興に繋がるという意味においてもできる限り地元で購入したい。また今後、地区としての支援活動を継続していくためには相当なお金がかかることが確実なので、とにかく金銭による支援をお願いしたい、とのこと。
- ・送ってもらった物資の中には不必要で処分をしなければならないようなものも多くあり、置き場所の問題や仕分けや整理の手間など、かえって負担になっているという事実もある。
- ・人的支援もコロナ感染リスクが再燃傾向にある現在、他県からメンバーが支援に来られることにはやはり抵抗がある。

② 各ボランティアセンター（社協）の要望

<八代市社協ボランティアセンター>

- ・「発電機」「軽トラの荷台にのるポンプ付き水タンク」「塩飴」「各種ドリンク」

<芦北町社協ボランティアセンター>

- ・「スポーツドリンクや OS-1 など様々な種類の飲み物」「土嚢袋」⇒ 芦北 LC 集積所からの搬入可能

<人吉市社協ボランティアセンター>

- ・今のところ特に必要な物資はなし